

**江東未来会議**  
**第4分科会（まちづくり・環境分野）**  
**第7回 議事概要**

日時：平成20年2月19日（火）19:00～21:00

場所：江東区役所 7階 第72会議室

参加人数：15人

1. 開会

2. 本日のワークショップの進め方について

【事務局より資料説明】

3. ワークショップ

第6回までの討議を踏まえ、事務局で取りまとめた提言書（案）について、全員で検討した。

（1）前回からの修正箇所の確認・追加

①水辺について

○参加者

- ・「■快適な水辺空間の整備～」に、都や隣接区との連携を追加してほしい。水辺は境界になっているところが多い。
- ・前回の議事で、「■親水空間の整備」について、「発展的整備」と修正されると理解していたが、その言葉が見られない。「親水空間の整備を進めます」だけでは弱い印象である。「整備を積極的に推進します」など、整備の後に強い言葉を入れる方が良いと思う。
- ・「臨海部には年間数千万人を～」とあるが、東京都港湾局が公表している数値を引用する方がインパクトがある。

○渋谷コーディネーター

- ・日本語として「積極的に進める」の方が理解しやすい。そのように修正することとする。
- ・臨海部の訪問者数については、根拠を確認の上、具体的な数値を加筆することとする。

○参加者

- ・「◎水路の復元～」の概要部分で、「現在は使用されていない道路や空間～」とあるが、使用されていない道路はないので、「低利用」などの言葉に変えた方が良い。

○渋谷コーディネーター

- ・「◎区民が自然に関わる機会の創出」の概要部分で、安全教育だけでは柵を作るなど水辺

から遠ざかる方向で捉えられてしまう恐れがある。靴や洋服を着たまま水に落ちても泳げるような訓練などを例示で加筆した方が良い。

## ②防災について

### ○参加者

- ・「◎合同防災訓練の実施」で、消防だけでなく自衛隊や警察も合同訓練に含めた方が良い。日頃から実施しておかないと、いざという時に連携して取り組むことができない。
- ・昨年9月の都の訓練では自衛隊も参加した。区ではそこまで考える必要はないと思う。取組主体は定期的に参加するところを主にあげてはどうか。
- ・これは区が独自で防災訓練をやろうというのではないか。
- ・年一回の訓練は関係主体がすべて参加し、総合的にすべてやっておかなければならない。
- ・「ライフスタイルに応じた実施日時の工夫などにより」とあり、ここでは小規模に訓練を行い、認識を広める方が大事だと認識していた。総合的な訓練は今も実施している。
- ・大きなマンションもあり、仮に本当に区民全員が参加したら、通りも通れない。

### ○渋谷コーディネーター

- ・自衛隊が参加する都の訓練も、実際は毎年どこかに重点をおいて局務的に訓練を行っている。総合的な大規模な訓練というのは区のレベルでは難しいと思う。

### ○参加者

- ・小規模の避難場所単位等の取組は残して、大規模な訓練は新たに付け加えてはどうか。合同訓練を2つに分け、①総合的な訓練、②避難場所単位などの訓練としてはどうか。
- ・自衛隊や警察にお任せではなく、自分たちで守るという意識付けのために訓練が必要。
- ・同項目の取組主体について、今マンションが多いので、「自治会」も入れた方が良い。

### ○渋谷コーディネーター

- ・①に重要なきめ細かな訓練を入れて、②に年一回の大規模な訓練を別項目として追加することとしたい。また、取組主体には、町内会と自治会を併記する。

## ③交通について

### ○参加者

- ・P70「◎循環コミュニティバスの導入」で、免許保有者は50円にとすれば、マイカーを規制することが出来る。自動車を乗らないようにすれば空気が良くなる。
- ・すでに、100円でも半値である。
- ・免許保有者が車を持っているとは限らない。料金を書かずに優遇とした方が良い。
- ・お年寄りや免許がまだ取れない若い方は同じ区民でも優遇されないのかとなってしまう。
- ・免許を更新しない人は無料や半減にすることで、利用者が増えた例も聞く。お年寄りが車を運転するのは危険なので、免許を更新しない方には優先割引をする方法もある。

○渋谷コーディネーター

- ・具体的な料金には根拠が必要になる。ここではワンコインをイメージしている。「区民は低料金で乗れる」という表現にしてはどうか。この循環コミュニティバスは、なるべく区内を便利にしようという発想から始まっており、初乗り運賃でどこまでも行けるといいう話であった。一定の料金で1日乗れるということである。

○参加者

- ・1回で乗れるという言葉が消えている。全体を通して車社会の補完という考え方がみえる。車に頼らない交通にしたいというニュアンスの文言に直してもらいたい。
- ・「取り組みの方向性」について、「南北に幹線交通を通し、各地区を結びつけます。そして、地区ごとの主要施設を通る循環コミュニティバスを運行し、コミュニティバスの拠点（ハブ）で、一度で乗り換えることで、区内の隅々まで行ける交通網の整備に取り組みます。」に修正。同2段落目で「障害となっている放置自転車や～」に修正。
- ・「◎貨物線跡地の活用」で、「亀戸から臨海部までを結びます。現在ほとんど使われていない小名木川貨物線の跡地や既存道路や公共用地を活用することで、効率的な整備が可能となります。」と修正。
- ・「◎LRTの整備」で、「道路交通を補完し」を削除する。
- ・「◎循環コミュニティバスの導入」で、「～地区の主要施設を経由し、コミュニティバスの拠点（ハブ）で、幹線交通あるいは他の循環コミュニティバスに一回（一度）乗り継ぐことで、区内の隅々まで移動することができます。区民は低料金で乗車することができます、乗り継ぎも可能とします。」と修正。
- ・「◎無電柱化の促進」の目的で「道路の安全利用の促進、景観の形成」と修正。概要は「歩道や自転車道の広さを確保し、交通事故を削減するとともに、歩行の安全性を確保するために、電柱の地中化を進めます。」と修正。
- ・「◎放置自転車の防止～」では、目的を「道路の安全利用の促進」と修正。
- ・「◎トランジットモールの整備」では、「～通行を原則規制し、トランジットモール化し、歩行者優先の空間とすることにより、にぎわいの溢れる商店街をつくります。」と修正。
- ・交通網の将来イメージ図は、各コミュニティバスの円からハブに結ぶようにしてほしい。「南北横断」を→「南北縦断」と修正。
- ・交通網の将来イメージ図で、清澄や森下あたりを深川地区として、門前仲町の上くらいに付けてはどうか。しかし、深川という地名はない。また、新砂も入れてはどうか。高齢者医療センターがある。
- ・江東区の外郭を書いて、円が区全体を網羅するように表現してはどうか。

○渋谷コーディネーター

- ・この地図は象徴的に良く出来ており、あまり詳しくすると解からなくなってしまう。

○参加者

・無電柱化は、景観に大きく影響するので、目的に残しておいて良いと思う。また、「歩道の障害物」は看板などが結構歩道に出ているので、それを障害物と言っている。

○渋谷コーディネーター

・「◎無電柱化～」は、目的の良好景観と、文中の「看板などの障害物を撤去して」は残す。  
・LRTの構想は、この新木場までは元の貨物線跡を利用するということか。

○参加者

・それも一つである。例えば、亀戸と新木場間は明治通りの二車線を潰してでも作ることも考えられる。ただ、今現在、貨物線の跡が残っているので、活用できると良い。  
・図面で、LRTを幹線にするのであれば、点線は弱いので、太い実線にした方がよい。

○渋谷コーディネーター

・それでは、ここまでの議論を踏まえて、図面は再修正することとする。

○参加者

・これまでの議論にはないが、新たに放置自転車対策の改革案がほしい。放置自転車をゼロにできれば、年間対策費6億円をなくせる。また、シルバー人材センターを活用する。さらに、通勤者の自転車に当てれば、新規購入の自転車をゼロにすることができる。

○渋谷コーディネーター

・原則として、提言書は議論を積み重ねた結果であり、今まで議論してきた範囲でまとめていきたい。網羅性は審議会の専門家が配慮すると思う。「放置自転車の整備および改革案を出す」と一行入れることにしたい。

## (2) 環境に関する記述について

○事務局

・欠席者から、現状および問題認識に対し、「～住においては、エネルギー消費の節約、設定温度を1～2度上げ下げする。乗り物の車内温度が異常～」と、環境に絡んだ意識改革の重要性についての意見があった。

○参加者

・6行目「例えば、水辺では、～」は、水害対策のような表現があるが、今回水辺のテーマは災害に対しての対策はまったく論じていない。それよりも親水空間を広げることで気温上昇を低減させ、温暖化を抑止するイメージである。  
・この段落では、環境に配慮した方向転換の内容を書かなくてはならない。  
・利用対策と防止の両方が混在して記述されている。防災は対策で、水辺と交通は積極的に環境に働きかけていくことも考えた上での提言である。  
・順番にこだわらないのであれば、水辺と交通をつなげて「温暖化防止に向けた取組を推進することが求められます。」とし、その後防災の対策を記載してはどうか。

○渋谷コーディネーター

- ・最後の段落は、問題認識の前文のようになっているので、3テーマを貫く環境の配慮が非常に重要という意味合いを付けたいらどうか。

○参加者

- ・「環境に配慮した行動を実践して成果をあげることが重要です。」の方が良い。
- ・「区民、事業者、行政など三位一体となり」の方が良い。

(3) 分科会全体の将来像について

○渋谷コーディネーター

- ・例えば、区民あげて取り組むというように、取り組み方を述べることもできる。
- ・3テーマの将来像の中に言葉のヒントがあると思う。

○参加者

- ・3つの細かいテーマを1つにまとめ上げるものとして、環境の部分がある。
- ・何か象徴的な言葉を入れたい。安全・安心・環境に優しい江東区、水彩都市江東区のように。水辺と交通と防災を合わせるとトータル的になる。活気や未来のある言葉がいい。
- ・3テーマに共通して「～しやすい」というところに目標を求めて決めている。水辺は「自然に接しやすい」、防災は「防災訓練に参加しやすい」、交通は「行動しやすい」など。
- ・どこにも「まちづくり」という言葉が入っていないので、ここを入れた方がいい。
- ・1つのセンテンスにしたい。“水辺と防災と交通”の真ん中にあるのが“環境とまちづくり”。もう1つ抜けているのが、誰が主体かということ。ここで言いたいことは住民主体。例えば「住民主体による環境優先のまちづくりを実現します」。その実現する3つの切り口として、水辺と防災と交通がある。

○渋谷コーディネーター

- ・住民という呼び方がいいのか、区民という呼び方がいいのか。

○参加者

- ・行政だけではなく、生活者、事業者の視点も入れるか。「区民、事業者、行政」を一言で表すか、あるいは区民あるいは事業者に重点をおいて、行政に対して提言するのか。
- ・まちが3つあるから、スリータウンというのはどうか？
- ・単純に「美しいまち」ではどうか。水辺は文字通り景観が美しい。人々の防災意識が芽生えて、漂とした心を持つ意味で美しい。交通が便利で整備されている意味で美しい。
- ・今までのキャッチフレーズ「水彩都市江東」を拒絶するのはいけない。
- ・交通は「融合」である。南北、東西を融合して、新しい住民も融合しなくてはならない。江東区には、融合が求められている。環境とも融合が必要である。「融合都市」が良い。深川も城東も今はない。それを抜け出さないと、新しい人も入りにくい。元々我々が議論したのは、古い町をなんとか融合してコミュニケーションをもとうということだった。

○渋谷コーディネーター

- ・「区民の生活と心を融合する水辺と防災と公共交通が活かされたまち」はどうか。
- ・ここは強いて将来像を一つにしなくても良いとするか、強いて作るか。

○参加者

- ・一言入れておいた方が良いので、今の案が良いと思う。

○渋谷コーディネーター

- ・それではここまでの議論をもとに、事務局と練ってもらう。愛着のある区の職員にも整理を手伝ってもらいましょう。

#### 4. 事務局からの連絡事項

○事務局

- ・次回の提言発表会では、各分科会から発表者を選出して発表を行う。まず、発表者を何名とするか決定したい。

→議論の結果、各テーマ1名ずつとし、発表者を3名とする。発表者は以下のとおり。

水辺：小野さん（細田さん）、防災：染谷さん、交通：中陳さん

- ・本日の議論を踏まえて提言書を修正するが、最終確認はテーマごとに発表者に一任いただきたいと考えているがいかがか。（異議なし）

（以上）